

青森中央短期大学 研究紀要 第31号（2018年）抜刷

主体的・対話的・探究的な学習における 真正の学力形成過程

～合同授業における指導計画の再構築と諸課題に関する検討～

A Development Process of the Authentic Academic Ability
Based on the Self-directed, Interactive, and Inquiry Learning
— A Reconstruction of the Instructional Design and Issues
in the Shared Instruction System

浅 田 豊

主体的・対話的・探究的な学習における 真正の学力形成過程

～合同授業における指導計画の再構築と諸課題に関する検討～

A Development Process of the Authentic Academic Ability Based on
the Self-directed, Interactive, and Inquiry Learning
— A Reconstruction of the Instructional Design and Issues in the
Shared Instruction System

浅田 豊

Yutaka ASADA

青森中央短期大学非常勤講師, 青森県立保健大学健康科学部栄養学科准教授
Aomori Chuo Junior College Aomori University of Health and Welfare

Key words ; 真正の学力、探究的学習、指導計画

1) はじめに

現行の学習指導要領の重点事項を基に、次期学習指導要領の理念や内容に関する検討が進んでいる。その中で、主体的・対話的・探究的な学習の重要性が再認識されていることは言うまでもない。教育的営為における四大要素である目的や目標・内容・方法・評価は相互に結び付いており、切り離すことはできない。その一例として、一方で方法知としての探究の場面が生徒の学習中に存在し、他方で自力解決・獲得していくべき内容としての真正の学力即ち、一定の原理を用いて実際の状況で知識等を活用できる、あるいは既習事項を分析的に統合し今後の構想をつくり出す、というような学力育成の時間が存在すると捉えられる。つまり今日の児童生徒には、いわゆる古い学力観を一部内包する新しい確かな学力に加え、真正の学力という側面の育成も期待されている。そのことを前提として、対象生徒の日々の学習活動の継続を有効に援助していく役割が、今日の教員には主として求められるよう。

また無論、教員養成のコースを担当する短期大学・大学教員も、今日の子どもたちに求められる学力に対する理解や、当該学力の育成方法の認識、教師を目指す学生の当該学力向上への支援方法・アイデア、学生が将来子どもたちへ当該学力を育成支援可能な実践的スキルを教職コースを通じて向上させていくという考えを有していることが望ましい。さらに筆者のこれまでの合同講義における教

育研究の中で、教職課程全体を十分に研究・把握した上で授業の目標・内容・方法・評価を定めること、授業計画・指導案作成の段階からより一層適切なPDCAサイクルを実行すること、といった点を課題として残してきた。以上を踏まえ本稿は、教育総論の講義の中で、主体的・対話的・探究的な授業を展開し真正の学力形成を目指した過程を振り返り、指導計画再構築の状況並びに諸課題を明らかにし、今後の講義の質の向上へと資することを目的とする。

2) 今日求められる学力観

教育総論では、教職を目指す学生に自分の教育観・学習観を土台にして、まずは自身の学力観を省察することから始め、実際に教壇に立った時に教育目的・目標を基盤にしてどのような学力観をもち学習指導を行うのかという点を考え、そのために教職課程の中でどのような学修を行うべきかについて内発的問題意識に基づいて、その考えを深化させてもらいたいと考える。即ち、表1-1、表1-2に示したような学力観を受講学生たちがどのように理解し、表1-3のように自分の内面に構成することができるかが重要となる。学生のその認知の変容過程を、ループリックを用いて客観的かつ個別的に測定していくことは今後の研究課題である。

3) 真正の角度からとらえた教員の資質

教職課程の受講学生はその履修選択は自由意思であるが、短期大学であれ四年制学部学生であれ、採用試験の受験あるいは実際に教師になるまでには一定程度の時間はあるが、教師としての資質・能力のさらに根本的な部分は備わっているか、あるいは身に付けられるように努力している途中段階であるということが望ましい。一例として、教科の専門知識や説得力の高い自己表現的話術、リーダーシップなどであれば諸活動を通じ在学中に伸ばしていくことが可能であるが、「人と話すこと」、「人と接すること」、「人間という存在」、「子どもという存在」、「他者を教育すること」を基本的にどのように認識しているかという性質の側面であれば、受講学生一人ひとりがあらためてその意味をまずは自問自答していったほしいと考える。表2には、真正という角度からとらえた教員の資質をまとめている。教育総論の講義中の適切な場面で、これらの概念を解説したが、実践的な力としてパフォーマンス課題を用いてより一層伸ばしていくことが、今後の課題でもある。

4) 真正の角度から捉え直した「教育総論」の単元例

他者に教育的営為を行う教師にとって、その教育観・学力観は非常に重要である。また、教育者に求められる資質に対し、生涯を通じて研修や諸活動を通じ教師自身が一層向上させ続けていくという姿勢も期待される。さらに、教育は学校を中心とするものであるものの、教える側からだけの視点では不十分であり、子どもの理解即ち児童生徒のレディネスをどのように正確に把握するかが重要であり、子どもの健全な成長・発達の上で家庭教育や社会教育と学校教育が効果的に連携しなければならない。とくに子どもの性質つまりどのような存在であるのかということについて、家族とのあるいは地域社会での学生自らの体験等を織り交ぜながら、その意義等に関し思考を深めることが肝要である。そして、教育の本質をおさえた上で、教育の歴史や思想等と結び付けて考えられるようになることが期待される。こういった点を含めて、教師としての実践の場面で役立つ専門知識の向上を目標と

し、その基礎を形成するために不可欠な内容を表3にまとめた。

表3をさらに補足するために、教育総論の講義のスコープ及びシーケンスに教育方法を加味し一覧化したものが表4となる。方法には形態・技術に加え思考の順序や過程が適宜含まれるが、主体性や協同性を踏まえつつ、学生にとって経験的・具体的なものから徐々に抽象的・高度化したものになるように編成している。高校までの学習とは異なり、学生がメタ認知の観点を持ち、学問上の課題を見出し多様な学習資源を吟味し、最適の素材を適用し分析を加えてまとめていくといったような探究的な場面が大学の講義、とりわけ教職課程の学修には含まれるべきであろう。ピア評価に基づいて、この教育総論の指導計画そのものを客観的に振り返ることは、今後の課題として考えられる。

5) おわりに

本稿では、合同授業担当教員の立場で、真正の側面を中心に、再構築した講義の計画について検討したが、本来は、単一の科目または単一のコマだけで、教師に必要な力を育成していくものではない。コース・カリキュラム全体で真正の側面は向上させていくものであろう。したがってカリキュラム全体とのかかわりから教育総論の科目の意義を今一度捉え直していくことは今後必要である。また、この点は今日の大学教育全体の検討課題でもあるが、学生が身に付けた能力や汎用性等をアウトカムとして測定していく尺度の開発は、筆者の担当科目としても今後必要であると考えられる。

6) 文献

- ① 文部科学省中等教育審議会教育課程部会『次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ』2016年8月。
- ② 国立教育政策研究所教育課程研究センター『全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例』（小学校）（中学校） 2017年9月。

表1-1 学力観

古い学力観： 暗記・記憶を重視し知識の伝達・習得を目指し、 従来のペーパーテストによる測定や入試に必要な 学力を含むもの	新しい学力観： 意欲や主体性、知識の活用、問題解決的な思考 や表現力を含むもの
真正の学力観： 一見して正解が見当たらないことに科学的・創造的に対処する力、学んだことを実際の生活・ 実践的な場面で活用できる力、討議や実技・実演を通じて高まる力、メタ認知、価値意識を含 むもの	

表1-2 真正の学力の例

文化に関する領域： 社会生活の中で自分の考えを形成する／事象の 意味や相互関係を捉え今後の構想を立てる	自然に関する領域： 未知のことに對し論理的に推論する／身の回り でおきている現象に對し仮説を立てて検証する
生活に関する領域： 諸活動を通じて抱いたイメージと生活との関係を考える／人間の生き方や在り方を考える	

表1-3 真正の学力の形成過程(例)

認知： キーワードや個別事象を知る／ポイントの理解 ／記憶にとどめ次の単元で生かす／筋道や根拠 を基に見解を述べる／複数の概念・事象間の関 係性・連結性を考える／分析に基づく提言／議 論または協同に基づく問題解決／本質を見抜い た説得力のある見解のまとめ	スキル： 指示された手順のイメージ／指示された範囲内 での部分的な行動化／模範となる技術をまね た、支援のもとでの試行／独力でのある程度の 熟達／他の場面での応用／咄嗟の状況での自分 流の工夫を加えた実施／生活場面での無意識ま たは即興での実施／他者へひらめきを与えるよ うな水準での実施
情意： 題材への興味と学習課題への関心／他律的または同調的に振る舞う／分かる楽しみのグループ 内での共有／注意深く学習を進める／自分を見つめ工夫する／他者と刺激を与え合う／価値へ の志向／フィードバックを受け自信をもつ	

表2 真正の角度からみた教師の資質(例)

人間的な側面： 多様な価値の尊重と個の受容／すべての文化・コミュニティ・人と公平に接する態度／相手の立場に立って考える力	職業人として（教養を含む）： I C Tを含む表現力／生涯を通じて自分を教育し続ける力／チームで仕事を推進する協調性・社会性
教育専門職として： 子どもを観察・理解し日々の事象に対応する力／完全習得学習を目指すことができる実践力／ラポールに基づく学級づくり	

表3 真正の角度からみた教育総論の計画

<p>1) 教育の本質：子どもの内なる可能性を引き出すという概念を日々の実践につなげることの理解</p> <p>2) 教育の目的：学習指導要領や学校の教育目標等を踏まえて自らの教育活動を推進する力の育成</p> <p>3) 教育の歴史：家庭教育・社会教育を含め教育の歴史を踏まえて今日求められる教育を実践することができる力の育成</p> <p>4) 教育の思想：子どもや家庭・学校に関する国内外の教育思想を必要に応じて適宜自分の教育活動の場面で活用する認識</p> <p>5) 教育制度：社会背景や法的構造と学校教育制度とをつなぎ合わせた上で、その課題等を理解すること</p> <p>6) 教育課程：年間指導計画を適切に管理し工学的・羅生門的接近に基づく工夫を行う認識</p> <p>7) 教育方法：子どもを中心とする個に応じた指導や有意義学習等をどうすれば実施できるかに関する思考</p> <p>8) 生徒指導：共感・受容というスキルに基づく問題解決への認識</p> <p>9) 教師の在り方：人間性や実践力など教師に必要な資質を備えるために何をすればよいかの思考</p> <p>10) 生涯学習：教師になった後も自己研鑽を続ける力の基礎</p> <p>11) アンドラゴジー：対象に合わせた援助の仕方を使い分けるという認識</p> <p>12) 青少年教育：現代の青少年の特徴をつかみ日常の支援に役立たせる力の育成</p> <p>13) 家庭教育：家庭教育の今日的課題を踏まえて学校教育の在り方を模索する力の育成</p> <p>14) 学校・家庭・地域の連携：学校内外の人々と実際に協力していく認識</p> <p>15) 教育改革：日々の教育の改善や行政レベルの改革を包括的に理解する力</p>

表4 再構築された教育総論(概要)

- 1) 教育の本質：教育の理念に関し、検討課題を発見し自分のシートに書き出し、その意味を考える。
- 2) 教育の目的：学習前後の認知の変化を振り返り文章化する。
- 3) 教育の歴史：近代から現代に至る教育の歴史の要点をグループでまとめる。
- 4) 教育の思想：テーマ（例 子どもの人権）を選択し、あるべき教育の姿を考え出す。
- 5) 教育制度：調べ学習により、学校教育制度のメリット・デメリットを考える。
- 6) 教育課程：カリキュラム編成の構成要件を多角的に考える。
- 7) 教育方法：複数の教授方法（資料中の事例）の違いについて板書により発表し、討論する。
- 8) 生徒指導：問題を抱えた子どもへの対応策について検討する。
- 9) 教師の在り方：どういった経験が教師としての資質を高めるかについて、全体で議論する。
- 10) 生涯学習：意図的学習・無意図的学習（偶発的学習）の事例について列挙する。
- 11) アンドラゴジー：多様な対象への種々の教育方法の特徴（差異）について比較する。
- 12) 青少年教育：グループによる事例の検討と発表。
- 13) 家庭教育：実体験や事例から本質をとらえ、文章化する。
- 14) 学校・家庭・地域の連携：資料から課題を見つけ出し、発表し、相互に参考にする。
- 15) 教育改革：教育の改善・改革の事例を理解し、要点について発表する。